

小児がん対策

静岡県立こども病院 ほほえみの会
池田恵一

小児がん

- 小児の病死の1位
- 年間2,000-2,500人程度 発症
- 白血病や脳腫瘍のように血液や骨にできる肉腫が90%以上
大人に多い胃がんや肺がんなど粘膜にできる癌腫が10%以下
- 多彩(100種を超える腫瘍)希少
年間日本で数例の腫瘍も 思春期・若年成人(AYA)にも発症
- 全体として70%が治癒する時代
薬が効きやすい
集学的治療(手術、化学療法、放射線)
- 晩期合併症

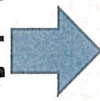
小児がんに係る がん対策推進基本計画

- 重点的に取り組むべき課題
働く世代や小児がんへのがん対策の充実

- 個別目標
5年以内に、小児がん拠点病院を整備し、小児がんの中核的な機関の整備を開始する。

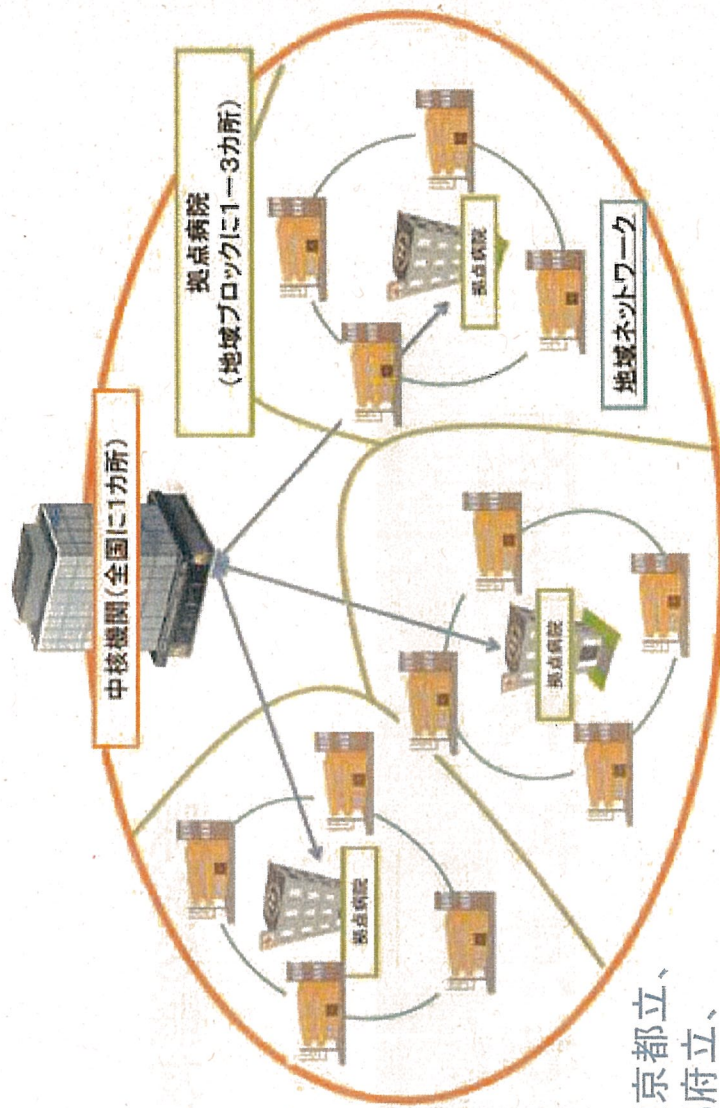
小児がん拠点病院

年間2000人の発症患者を
全国約200の施設で治療
症例少なく専門医育たない



- 難治性腫瘍・再発 集約
- 高度医療
- 臨床試験

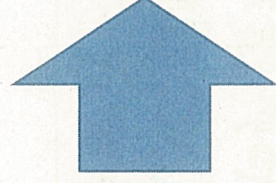
小児がん医療提供体制のイメージ(案)



全国15ヶ所の小児がん拠点病院
北海道大学、東北大学、埼玉県立小児、国立成育、東京都立、
神奈川県立、名古屋大学、三重大学、京都大学、京都府立、
大阪府立、大阪市立、兵庫県立こども、広島大学、九州大学

小児がん拠点病院への期待

- 高度医療の集約、研究
- 新しい治療法、標準治療の開発
- 心理的、社会的、教育的支援
- 長期フォローアップ



更なる進化を

さらに

- 拠点病院ごとに重点疾患を決めて治療、研究の集中化ができないか
- 治療実績や研究成果を全国の基幹病院と連携、情報開示してほしい
- 全国からのセカンドオピニオンの受け入れを

患者家族が望むこと①

治療の全国均てん化

- 全国どこでも同じ治療ができる

拠点病院と地域の基幹病院をネットワークで結んで情報共有

自宅に近い病院で治療したいー親は若い

- ー仕事は休めるのか
- ー収入はどうする
- ー交通費や外食など経済的な負担も大きい
- ーきょうだいの面倒は誰が 見てくれる
- ー学校、教育はどうする

- 開業医の再教育

小児がんを疑う意識

早く正確な診断をして専門的治療を受けられるように

患者家族が望むこと②

長期フォローアップ体制

- ・電子カルテの共有化ができないか

- ・小児科医と成人専門医との連携

小児がんは治る時代－

サバイバー　－再発、2次がん、晩期合併症に不安

小さい時から診てくれている医師に診てほしい

医療側

－成人になったら成人の専門医に診てもらわうべき

こども病院には年齢制限

夫々の医師の役割確認など新しい時代の医療体制構築

- ・フォローアップガイドライン、マニュアル作成

- ・個人のフォローアップ手帳

患者家族が望むこと③

- 小児がんへの偏見
- 学校の認識不足
- 教師の理解不足
- 復学の拒否
- いじめ、仲間外れ
- 企業の理解不足



小児がんの教育・啓発

小児がんの正確な情報発信

＜学校＞

小児がんは原因不明
生活習慣病ではない

＜社会＞

治療後の就職、企業理解
民間保険への加入

＜病院＞

相談支援